

連節バス導入でなく、 地域公共交通の充実こそ

あけと議員は、9月議会に BRT 問題で一般質問、11月は岐阜市を視察、12月議会では所属の環境建設委員会で「連節バス導入中止を求める請願」の採択を求め質疑。連節バス導入を市議会が決めましたが、市民合意のない“見切り発車”であり問題です。以下は、岐阜市を視察し学んだことです。

あけと和枝

1 市民参加で2005年に 策定した「岐阜市総合交通政策」

岐阜市は2004年から市民が参加する「市民交通会議」と、コミュニティセンター単位で延べ17回「一日市民交通会議」を開催して、市民の声を政策に反映させ、2004年に「岐阜市総合交通政策」を策定。

市民参加のやり方が、その後、「コミュニティバス（新潟市では住民バス）を全市に網羅させる取り組みにつながった」とのこと。現在岐阜市では民間バスが走らないところは、16のコミュニティバスが全市を網羅して走っている。

新潟市は11地区15路線ですが、人口規模からすれば岐阜市は新潟市の倍を走っていることになる。ある団地の運営では、50人程度がサポーター登録して乗降の手伝いをしているが、里山整備、うたごえ喫茶と地域のつながりが深まっている。バス料金は地域別（高齢者人口）によって、15%から40%の収支率で、住民の運営組織の負担はなし。

2 2011年に導入した 連節バスは必要なし

一方、岐阜市は2011年3月に連節バスを導入。市長が強引に導入をはかりましたが、市議会を二分して紛糾したそうです。その理由は「連節バスは効果があるのか」ということでした。

視察した朝、岐阜駅前で連節バスの乗車状況を確認しました。朝のピーク時に岐阜駅と岐阜大学・病院を結ぶ連節バスが走るのは、7時47分と8時1分の2本で、2本とも乗車は53人程度。この時間帯には一般バスが同じ路線を多く走っていますが、一般バスでも十分対応は可能です。新潟市もこうした教訓を踏まえて、連節バス導入でなく、住民バスをはじめとした地域公共交通の充実こそ力を入れるべきです。

西区内の要求を取り上げ全力

老人福祉センター「黒埼荘」の お風呂のボイラー早く直して！

新年早々に、老人福祉センター「黒埼荘」のボイラーが故障して入浴を休止しているが、早く直してほしいという要望があり、あけと和枝議員は武田勝利県政対策委員長と一緒に現場状況を見てきました。鉾泉のお風呂のボイラーは20年以上が経過し、昨年秋にも部品を交換しましたが、暮れにまたもや故障したとのことでした。また、増設した沸かし湯の方も設置から10年以上経過し、ボイラーの調子が良くないという状況もわかりました。1日に約4～5百人が利用する、とても人気のある施設です。「こ

こに来ると仲間も出来るし、ゆっくりお風呂に入れていいね」という利用者の声に応えるためにも頑張ります。



現場を視察するあけと市議と
武田勝利県政対策委員長

「市民アンケート」にご協力ください

あけと和枝議員は、これまで、乳児保育や病児保育の充実、ひまわりクラブの大規模解消など、一般質問でもたびたび取り上げ実現のために力を尽くしてきました。また、西区内では集中豪雨があった場合、坂井輪地域などで住宅地に浸水被害が出ていますが、この問題では地域で学習会も行い、バイパス管の延伸など抜本的な雨水対策の整備を求めてきました。

いま「市民アンケート」に取り組んでいます。みなさんの要望をお寄せください。